

隨泉寺寺報

平成26年（2014年）1月号 第521号

TEL 082-892-0217 http://www.zuisenji.com

浄土真宗本願寺派 高峯山隨泉寺

御正忌報恩講法要

講師 住職自修

講題 『御伝鈔について』



年頭の辞 光寿無

住職を継職してから十七年と六ヶ月過ぎました。中国の善導大師のお言葉に「人間總々（あわたましい）として衆務（日常のつとめ）を営み、年命の日夜に去ることを覚えぬ。（中略）いまだ解脱して苦海を出づることを得ず」（往生礼讃）とあるのが身にしみて感じられます。

年齢とともに、時の経つのが速くなるように感じられることは、多くの方に共 しているようですが、近年は世の中の変化そのものが速くなって一層、慌ただしく感じられます。

今さえ好ければ良いという風潮が感じられます。それでは、過去の過ちを繰り返したり、子孫の世代に負の遺産を残すことになります。

仏教の役割は、移り変わる世の中を生きる人間に、変わることの無い拠りどころを与え、恵まれたいのちを精一杯生きるよう導くことではないでしょうか。

浄土真宗では、阿弥陀如来の本願すなわち南無阿弥陀仏が依りどころです。阿弥陀如来に無条件に受け容れられることによって、私は不都合な過去も受け容れるようになり、今、生かされていることを喜ぶことができます。

今年も、お念仏申して、一日一日を大切に過ごさせていただきます。

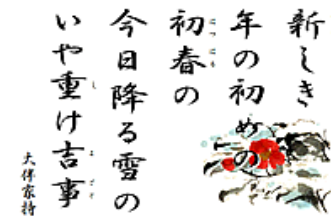
1月の法座予定

- 1月 6日 …………… 本部役員会
- 1月12日 …………… 掃除 平原上第1
- 1月14日 昼席午後1時より …………… 御正忌報恩講法要
- 1月14日 夜席午後7時より …………… 御伝鈔上巻拝読
- 1月15日 朝席午前10時より …………… 御正忌報恩講法要 御伝鈔下巻拝読 おとき
- 1月15日 昼席午後1時より …………… 御正忌報恩講法要 引き続き 新年互例会
- 2月 2日 午後5時より …………… 門信徒会本部役員会

新年明けましておめでとうございます。

旧年中は大変お世話になりました。どうぞ、本年もよろしくお願い致します。

《新（あらた）しき 年の初めの 初春の 今日降る雪の いや重（し）け吉事（よごと）》 大伴家持【新しい年の初め、この初春の、今日降る雪のように、良い事がますます重なるように。】



わが国最古の歌集「万葉集」の編者とされる大伴家持が、国守として因幡国（鳥取県東部）に赴任した折の元旦に詠んだ歌です。当時、正月の大雪は、その年良い事があるしるし・吉兆（きつちょう）と考えられていました。

長歌、短歌、旋頭歌（せどうか）など合わせて4500首に及ぶ「万葉集」全20巻は、このめでたい豊年を祈る家持の、堂々たる歌で終わっています。

この時、家持は42歳。以後、68歳で亡くなるまでの25年間、家持は一切歌を詠むことはありませんでした。

それにしても、なぜ家持は人生の佳境とも言うべき歳で、歌づくりを止めてしまったのでしょうか？

政治の実権が藤原氏に掌握されてゆく時代。旧氏族・名門の大伴家嫡流の家持の因幡国への赴任は明らかに左遷でありました。本当は、深い絶望の中で、正月を迎えたのです。しかしその歌は、絶望とは裏腹の、未来への希望と歓喜に満ち溢れた歌になったのです。恐らくは、絶望の底を突き抜け無私（無我）になったすがすがしさがあつたのではないのでしょうか？

「万葉集」がこの歌をもって、閉じられていることは、ある意味、すっきりした喜びの余韻があつて、後味の良いものです。

我が人生もかくありたいと思うものです。

☆ 古いビデオテープが出てきました。 庫裏の改築で整理をしていましたら、古いビデオテープが出てきました。オープンリールの年代ものです。す機械がないのでどうしようかと思いましたが、せっかくですから業者に頼んでDVDに焼きなおしてもらいました。内容はなんと‘改築された庫裏が完成したとき’のもので、いや工事が始まる時にも っています。亡くなった前住職や当時の役員さんも っています。焼きなおしてもらってよかったと思っています。御正忌報恩講で映 会をする予定でいますので、楽しみにお参り下さい。

☆ 聴聞表の表彰 去年は法座がなかったため、聴聞表の整理が出来ませんでした。今年は2年分の表彰をします。楽しみにお参りください。

☆御礼

永代経懇志 金 弐拾萬円 上田 則之殿 故 上田 島野様 特 永代経志として

☆御礼

門信徒会へ 金 一封 上田 則之殿 故 上田 島野様 香典返しとして

1月

「如来を信ぜずしては生きてもおられず死んでゆくことも出来」 (清沢満之)

「宗教・仏教に依らないでも、立派に生きている人がいるのに、どうして、仏教を聞く必要があるのだろう」という疑問をもったり、質問を受けたりされた方がいらっしやることでしょう。



他人のことは、想像するだけですが、宗教という言葉を使わないでも、それに近い素晴らしい体験をしている方かもしれません、あるいは、表向きは、素晴らしい生き方に見えても、内心には人に言えない苦しみをかかえている方かもしれません。

私達が、いのちの根本問題を忘れて、毎日をあわただしく過ごしている様子を、生きているのではなくて、電車や自動車のように動いているだけだと、批評した方がありました。

大事なことを後回しにして、目先のことを、

自分に都合良く考え、行動している私を受け容れ、支え、照らして下さる阿弥陀如来さまに気付く時、自分のいのちでありながら、自分だけの所有物ではない大切ないのちであることがわかります。

南無阿弥陀仏とお念佛申しつつ、開かれた人生を歩みたいと思います。

1月 ほとけさまのお心を 家庭に

東井 義雄師

ある新聞の欄に、いつか、次のようなことを書きました。

「おとなりの赤ちゃんの誕生祝いに、紅白のおまんじゅうが配られました。あなたの家ではこの紅白のおまんじゅうを、どうされるのでしょうか」と、問題を投げかけました。しかし、原稿用紙にそう書いたからといって、原稿用紙がすぐ返事を返してくれるものではありません。自問自答するしかありません。そこで私が答えることにしました。

Aさんのお家は、仏さまの教えを大切にされるお家ですし、お年寄りを大切にされるという評判のお家です。まず、仏さまにお供えしてから、白いのはおじいちゃんに、赤いのはおばあちゃんに、ということになりそうです。もちろん、おじいちゃん、おばあちゃんは、それを、お孫さんにわけてあげられる、ということになるだろうとは思いますが……。

Bさんのお家は、「子ビもこそ家の宝」と考えておられるお家です。数年前新築された新しい家においても、一番日当たりのいい明るい部屋を子ども部屋にされている程です。だから、きっと、白いのは太郎君、赤いのは花子ちゃん……ということになりそうです。

Cさんのお家のご主人と奥さんは恋愛で結ばれた方で、夫婦の存在を最優先にされているお家です。

「おじいちゃん、おばあちゃんも寝室に入っていかれたようだ、子どもたちも寝たようだ……それでは……」ということになり、白いのはご主人、赤いのは奥さん、二人でお茶を飲みながら……、となりそうです。

Dさんのお家のご夫妻は、国でも、社会でも、弱い存在ほど大切にすべきだ、と主張されている方です。ですから、家庭でも、白いのは二等分しておじいちゃんとおばあちゃんに、赤い方も二等分して、太郎君と花子ちゃんに……ということになるでしょう。

Eさんのお家は、人間はすべて平等である。誰かの犠牲やがまんの上に成り立っていくような世の中であってはならない。政治も、そういう平等社会を実現するためのものにならなければならないと主張されているお家です。白いのも二等分、赤いのも三等分、みんなひときれずつ、みんな顔を合わせて、お話しあいをなさりながら……ということになるでしょう。

Fさんのお家は、仏さまのお心を家庭経営にも……と、念願されているお家です。そして、お子さんの教育も、仏さまのお心をお心として……と念願なさっているお家です。きっと奥さんが、「太郎ちゃん、お隣りからいただいたおまんじゅうが、仏さまにお供えしてあるからね、あれをお下げして、おじいちゃん、おばあちゃんにも集まっていたいで、みんなにわけてあげてちょうだい」ということになるでしょう。

それで、太郎ちゃん、花子ちゃんが、おじいちゃんもおばあちゃんもお呼びし、仕事の忙しそうなお父さんもお呼びし、太郎君、花子ちゃんの手で二つのおまんじゅうを六等分、「おじいちゃんもおあがり」「おばあちゃんもおあがり」「お父ちゃんもどうぞ」「お母ちゃんもどうぞ」「赤いのは花子ちゃん」「白いのは ぼく」と、お母さんの手で入れられた熱いお茶といっしょに、お話しあいをしながら……ということになるだろうと思われま

というようななかみのことを書き、「さて、あなたのお家ではどうなさるでしょうか」と、問題提起をさせてもらったことを思い出すのです。

